

# 高齢者における医薬品の適正使用 と安全管理

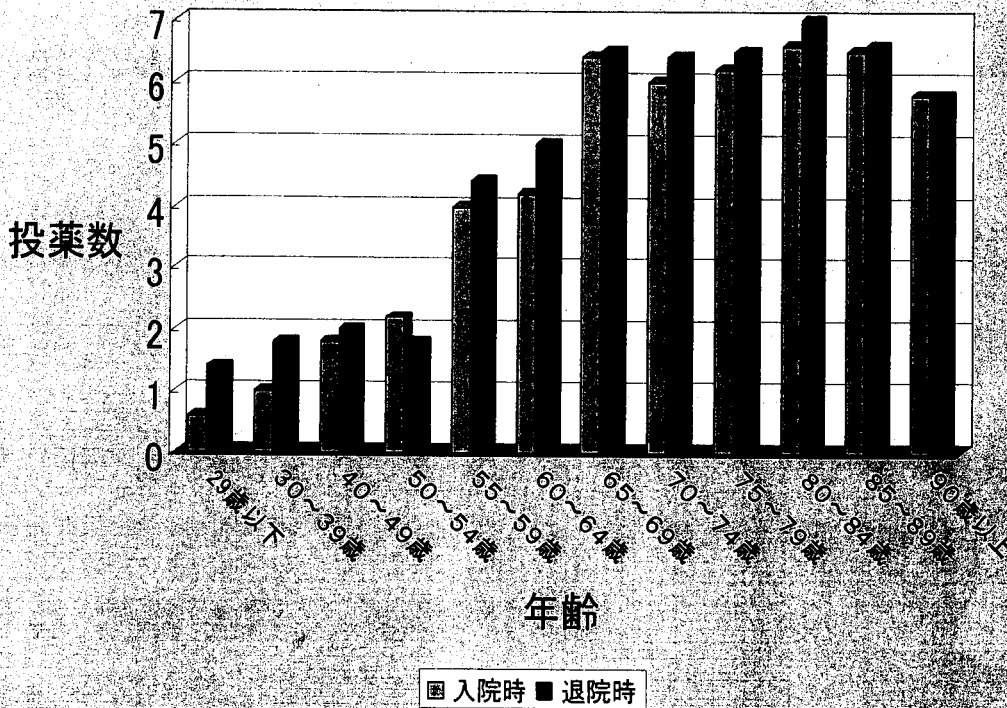


虎の門病院 薬剤部長 林 昌洋  
ヨシケン岩月薬局 薬剤師 岩月 進

## 高齢者薬物療法の特性と問題点

- 加齢とともに複数の疾患を合併することが多くなる。このため、多剤併用が多くなり、重複投薬、薬物間相互作用のリスクが問題となる。
- 視覚や聴覚機能の低下、嚥下障害などにより、服薬の自己管理や服薬自体に支援が必要。
- 腎機能・肝機能の加齢による低下、体成分組成(筋肉量減少・体脂肪比率増加等)の変化による体内動態の変動がある。こうした生理機能の個人差に対応した処方、調剤、服薬の管理が必要。

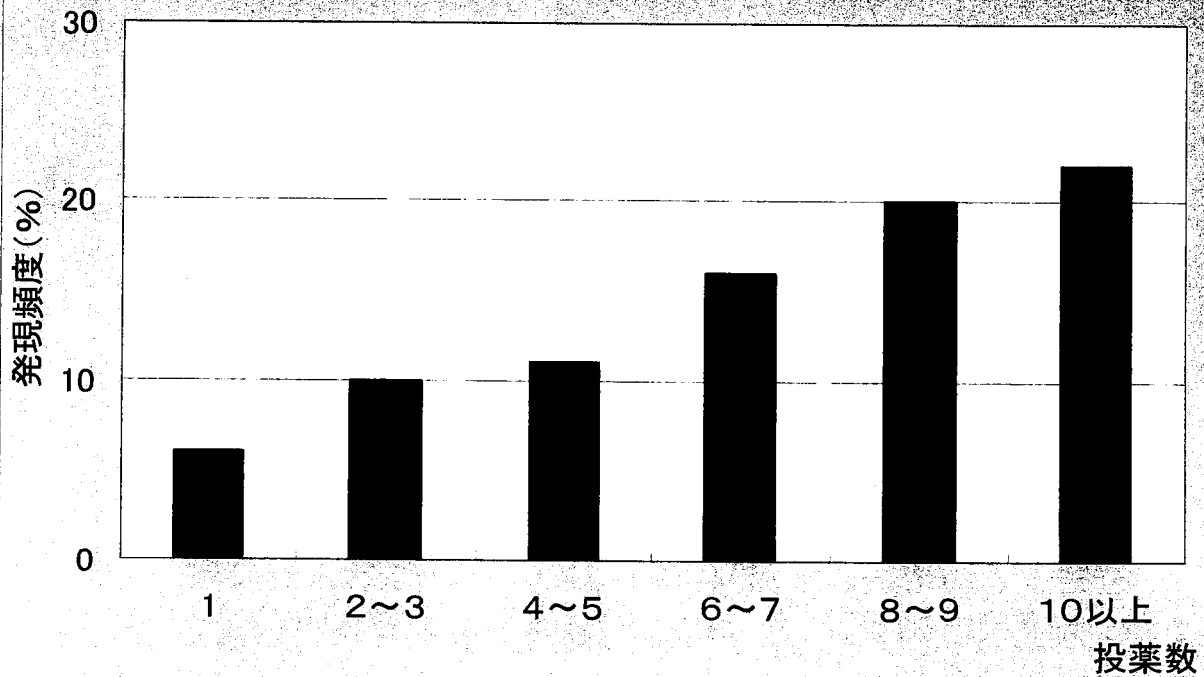
東大病院老年病科入院症例の投薬数加齢変化  
(1995-1998年)



鳥羽研二、他：日本老年医学雑誌、36、181-185、1999.

2

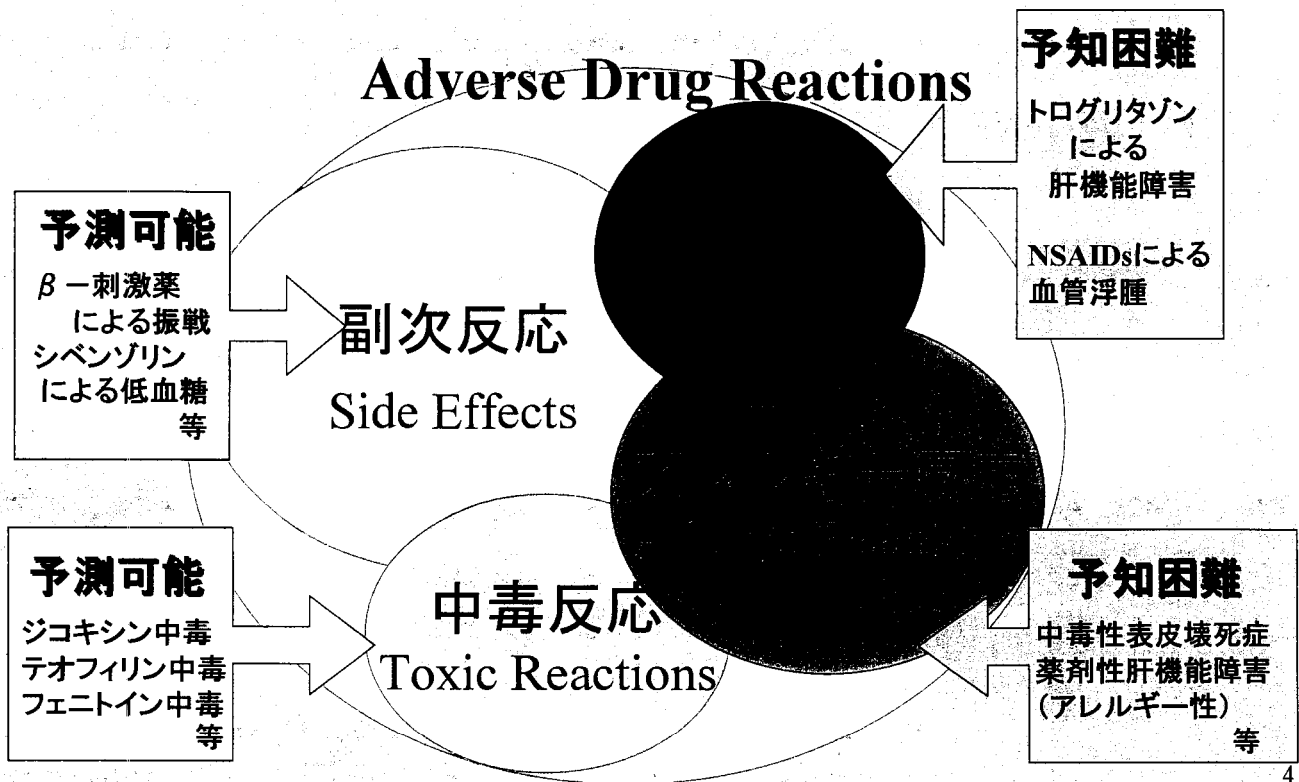
投薬数と薬物有害作用発現頻度  
東大病院老年病科(1995-1998年)



鳥羽研二、他：日本老年医学雑誌、36、181-185、1999.

3

# 薬物有害反応の発現機序とその予測・対応性



## 副作用の発現機序と高齢者の注意点

- ・ ‘副作用’は、その発現メカニズムから、4タイプに分類される。
- ・ 高齢者では、代謝・排泄などの生理機能の加齢変化により、薬物の体内動態が変わり、副次反応(狭義の副作用)や中毒反応に分類される副作用(広義の副作用:薬物有害反応)が生じやすい。  
こうした副作用は、薬理的、体内動態学的に予知可能であるため、一人ひとりの経過を薬剤師がモニタリングすることにより対処可能となる。
- ・ アレルギーが関与する副作用や、個人的な過敏性(代謝酵素欠損等)による副作用は予知は困難だが、初期の症状をとらえて重篤化を防止できる。高齢者では、初期症状が目立たなくなる傾向があり、薬の専門家が直接モニタリングしたり、副作用の自己管理のための支援が必要。

# 入院患者に関する薬学的処方支援 と副作用の未然回避

## I. 薬物療法開始前

### 》患者情報の評価

- ・ 投与禁忌
- ・ 慎重投与

### 》薬歴の評価

- ・ 重複する治療
- ・ 薬物相互作用
- ・ 薬物アレルギー歴

### 》処方の支援

- ・ 不適切な投与経路
- ・ 不適切な治療期間
- ・ 不適切な剤形
- ・ 適応外使用
- ・ 過剰費用となる治療
- ・ ガイドラインからの解離

6

# 入院患者の薬学的な患者モニタリング と患者支援による副作用の重篤化回避

## II. 薬物療法期間中

### 》有効性のチェック

- ・ 薬物動態モニタリング
- ・ 薬物と効果の解離
- ・ 患者満足度

### 》安全性のチェック

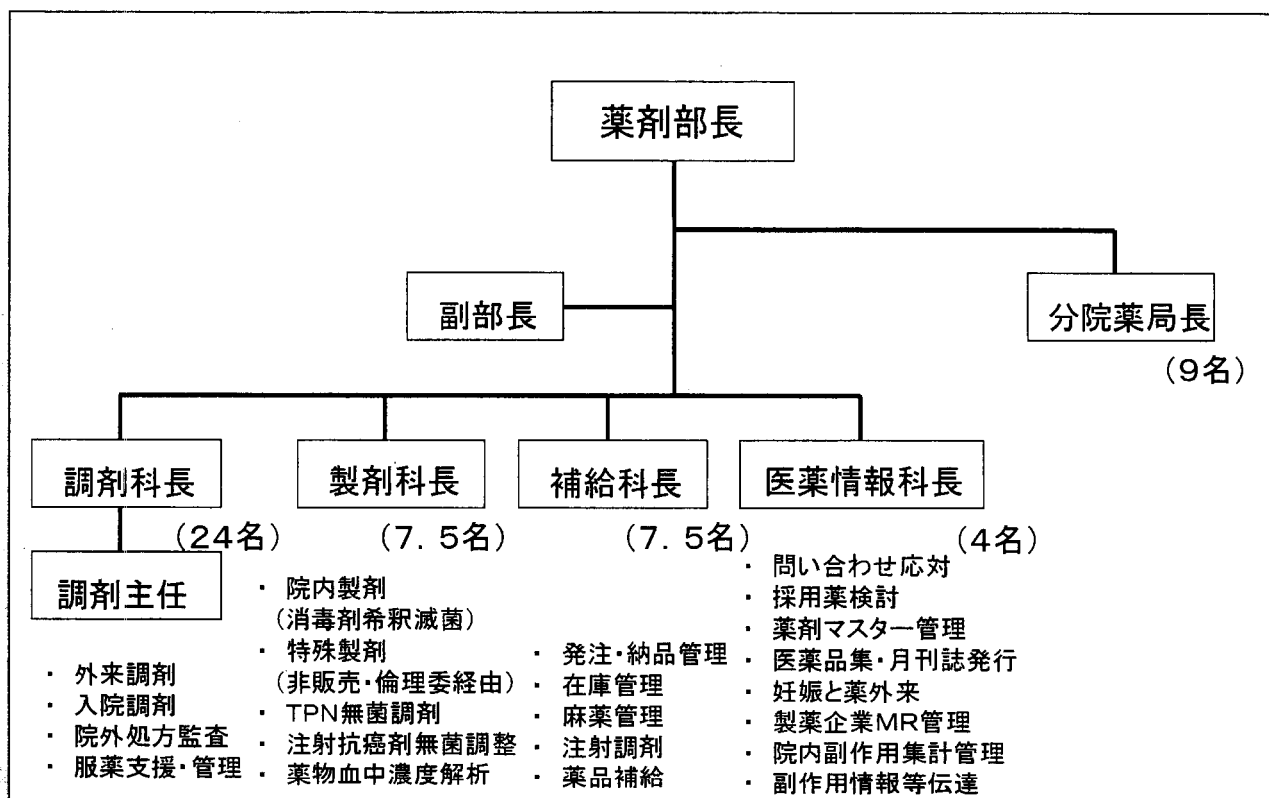
- ・ 副作用
- ・ 薬物相互作用
- ・ 薬物アレルギー
- ・ 薬物動態モニタリング

### 》患者支援

- ・ 治療意義の理解と選択・参加の支援
- ・ 副作用回避への自己管理の支援
- ・ 服薬の問題解決への助言
- ・ 必要な服薬カウンセリング
- ・ 不適切な自己治療の回避

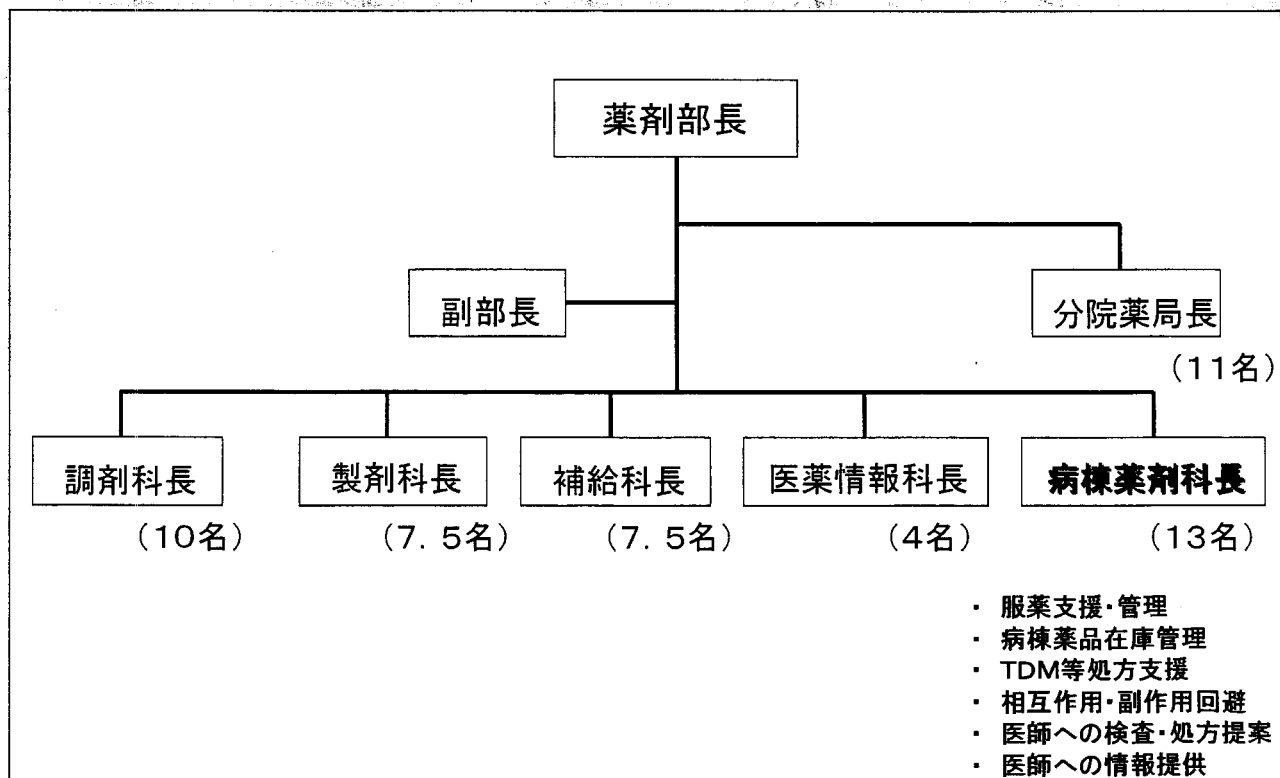
7

## 薬剤部管理組織図と主な業務(院外処方発行前)



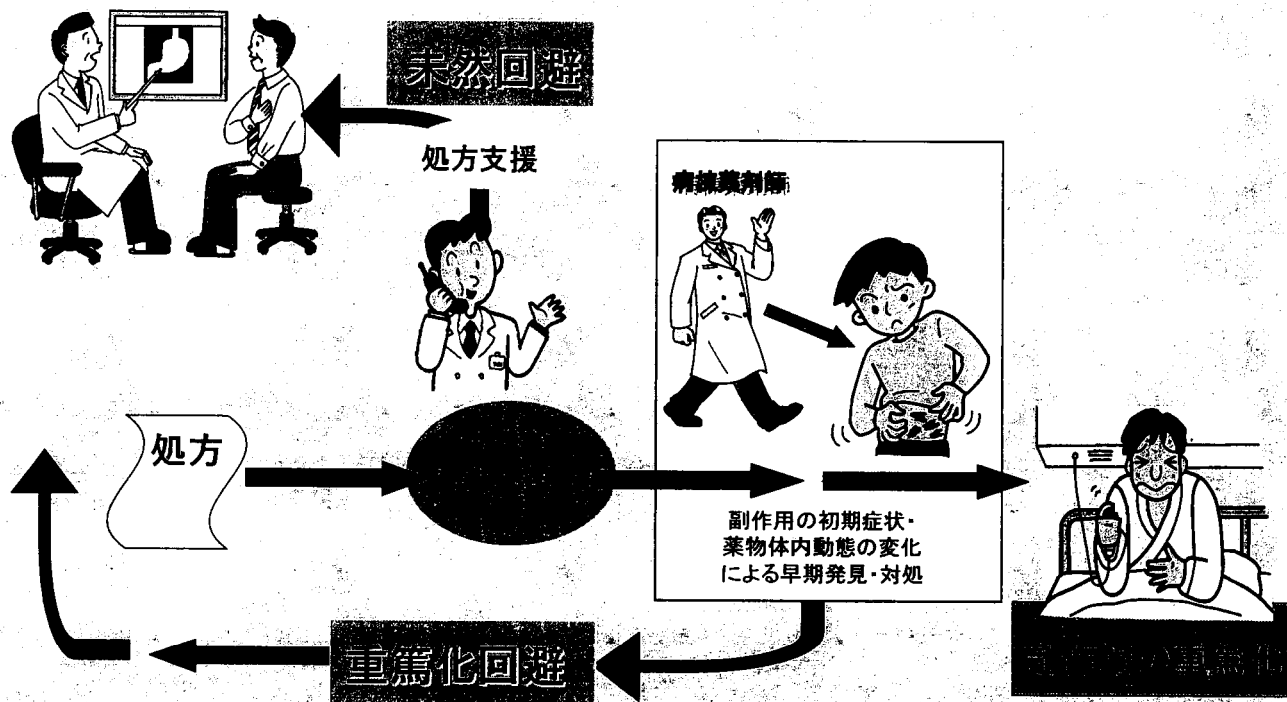
8 虎の門病院 薬剤部 旧組織図より

## 薬剤部管理組織図と主な業務(院外処方発行後)



9 虎の門病院 薬剤部 現行組織図より

# 処方支援による副作用の未然回避 と 病棟薬剤師による副作用の早期発見・重篤化回避



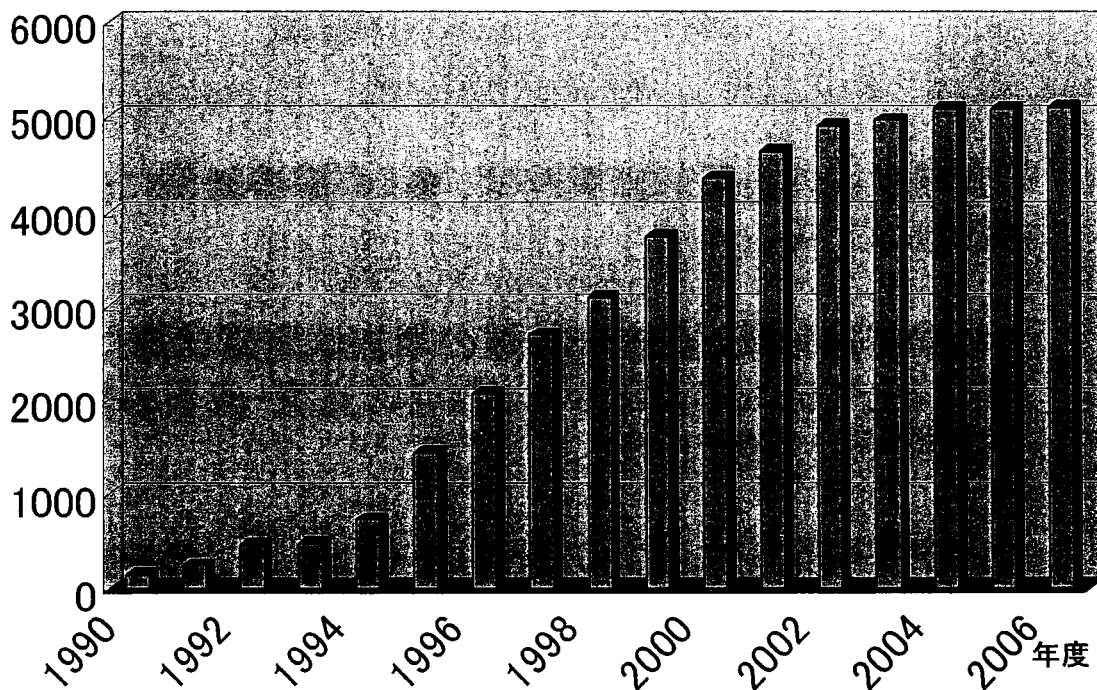
## 日本病院薬剤師会 副作用・相互作用等回避報告

薬剤師が、①薬物血中濃度の解析・予測と処方支援、②薬物への個人の反応を確認し副作用対策立案、③副作用の自己管理に関する助言、④薬歴管理、等の薬学的な患者ケアを実践して、薬の副作用、相互作用をはじめとした患者の安全管理に寄与した実例報告。

(社)日本病院薬剤師会が提案し収集している薬学的な患者ケア実例報告。

## 病棟薬剤業務実施施設数の推移

施設数

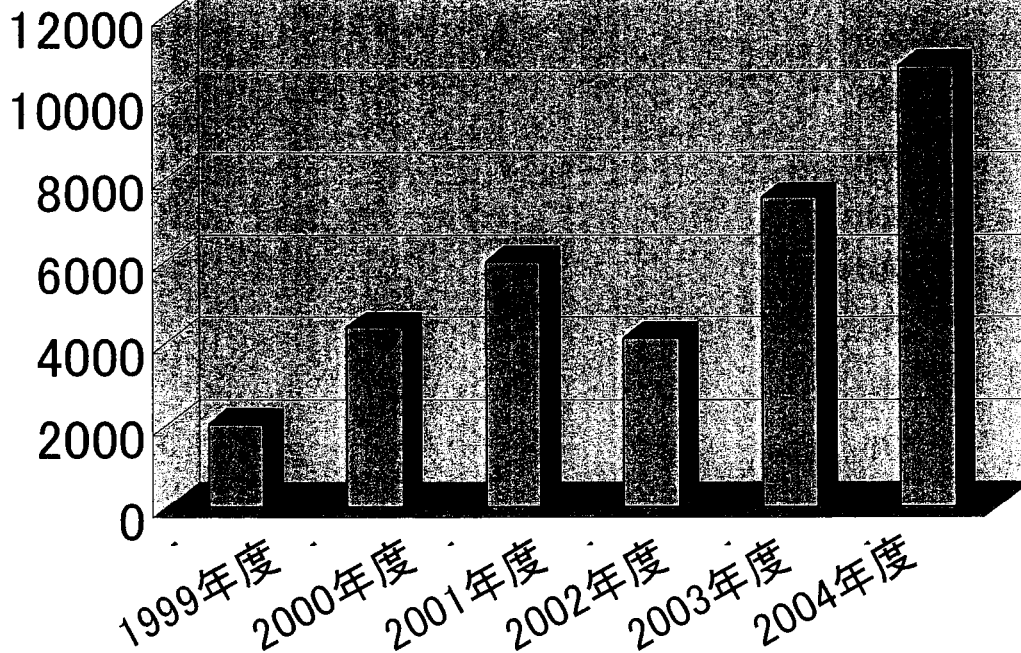


薬剤管理指導料算定施設の集計より

12

## 副作用・相互作用回避報告の推移

件



日本病院薬剤師会 副作用・相互作用回避報告の年次集計より

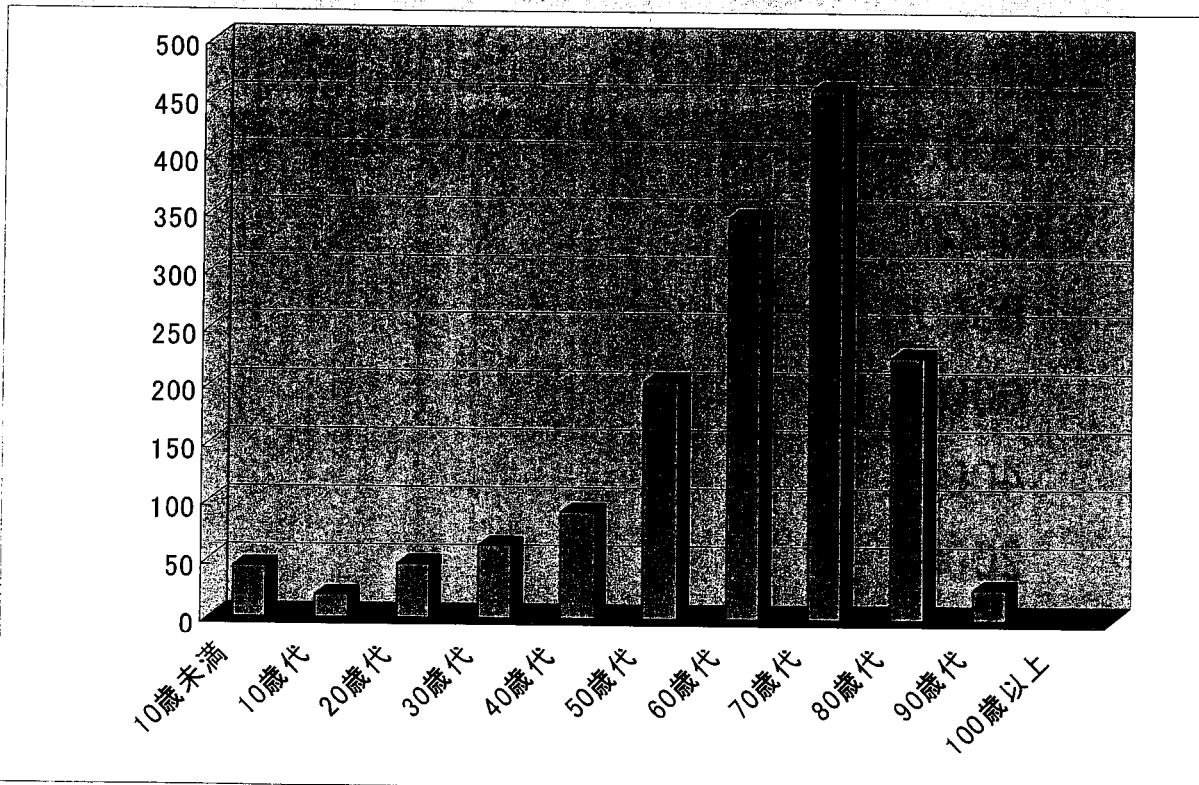
3

## 病棟薬剤業務実施施設数の増加 と副作用回避数の増加

- 病棟における薬剤師業務は、多くの医療機関に普及、定着している。
- 2000年度以降、実施施設数の増加は定常状態に近づき、業務として普及の段階から、内容の充実・成果の提供の段階に入ってきている。
- 病棟薬剤業務の成果の指標の一つとして、薬剤師による副作用の未然回避と、副作用の早期発見、重篤化回避の報告数は、著しく増加してきている。

14

## 重篤化回避事例の年齢別比較

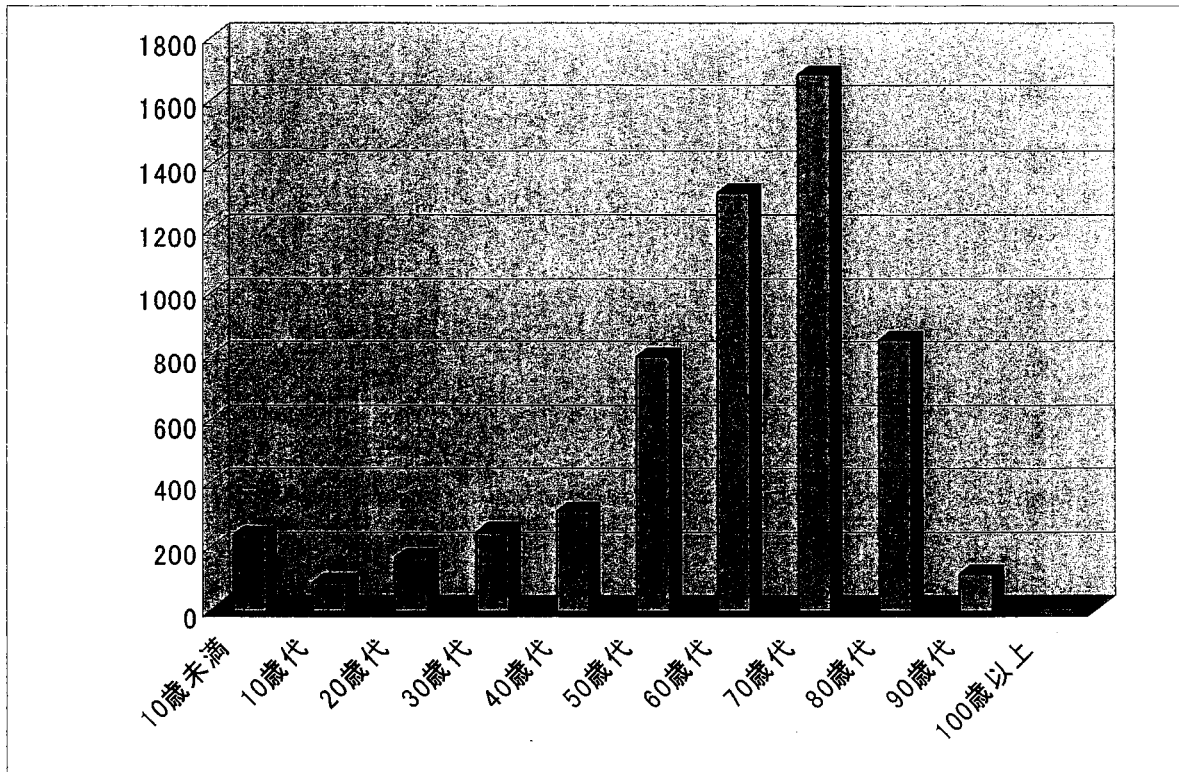


日本病院薬剤師会 平成16年度 副作用・相互作用回避報告集計結果  
(重篤化回避報告1,533件より)

15



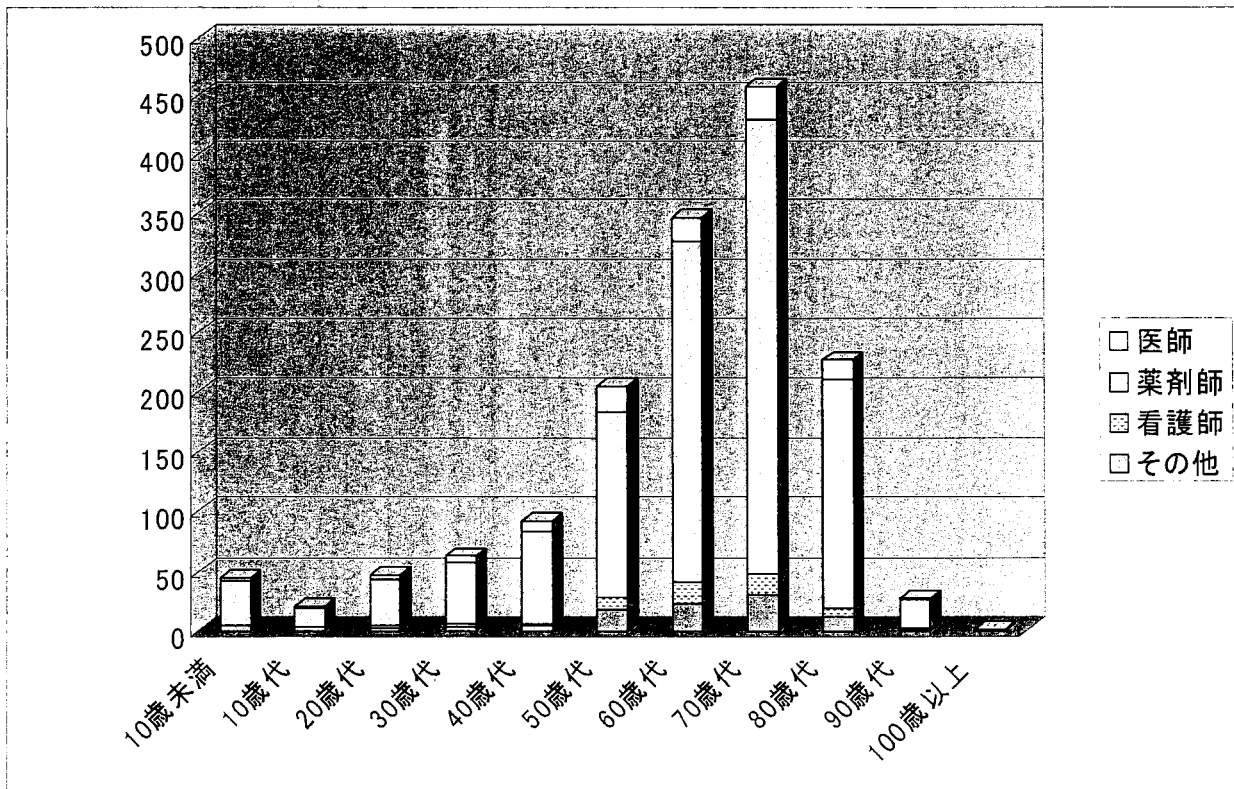
## 副作用未然回避事例の年齢別比較



日本病院薬剤師会 平成16年度 副作用・相互作用回避報告集計結果  
(未然回避報告5,811件より)

16

## 副作用・相互作用の発見者 (職種)



平成16年度プラアポイド報告DBから n=1,581

17